

小林肇先生のご逝去を悼む

経済学部長 鈴木芳徳

小林肇教授は、昭和六十三年四月三十日、急性心不全のため、現職のまま急逝されました。享年六十三歳、まことに痛恨のきわみであります。

小林先生は、昭和二十年、東京商科大学専門部をご卒業後、日本マネジメント・スクール教育本部長などを経て、昭和四十三年、神奈川大学経済学部にて赴任され、爾来二十年有余の間、本学において経営学の教育と研究とに情熱を注がれるとともに、紛争中の昭和四十六年には経済学部長、また昭和五十九年には本学入試センター所長として、本学の発展に多大の貢献をされました。

経済学部にとって、先生は何人にも代え難い存在でありました。人生を愛されるようにこの大学を愛され、また教え子に深い愛情を注がれました。手塩にかけられた学生たちの卒業後の成長を楽しみに語られるそのご温顔は、なお記憶に新たなところであります。

経営学方面の教育・研究システムの充実については、とりわけ多くの夢を抱いておられ、ビジネス・スクール方式をいかにして導入するか、ビジネス・ゲームを教材にどう生かすか等、その抱負と青写真は、先生の手許に用意されておりました。経済学部の発展のために、いま暫くの時間をお借りすることができていたなら、と思うと誠に残念な

ことであります。

先生はまた、洒脱な江戸っ子であり、周囲を暖く包み込む大きな常識人でありました。そしてまた、芸術の世界を深く理解される教養人でもありました。けれども、多くの学生諸君を魅了したその講義を再び聴くすべはすでにく、またその人間的魅力に接することはできないのであります。誰が先生とのこんなに早い別れを予想しえたでしょうか。

経済学部では、昨年六月一日、先生のゆかりの方々にお集り頂き、追悼の会を催しました。大勢の方々各方面からご参集下さり、先生を偲びつつ語り合い、先生に深甚の感謝を献げ、弔意を表したのであります。

茲にあらためて先生の業績をたたえ、大学への貢献に深謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

平成元年一月